



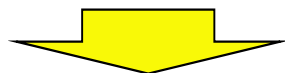
平成28年度業務計画(案)

電磁界情報センター

平成28年度業務計画の考え方(1/2)

東日本大震災・津波被害・原子力発電所事故を通じて、

- 国や事業者が発信する情報への信頼低下
- 放射線をはじめ、さまざまなリスクに対する感受性の高まり



信頼できる「第三者機関」からの情報発信、リスクコミュニケーションの重要性が高まっている。

<平成28年度の活動>

○信頼できる「第三者機関」としての存在感の獲得と、効果的・効率的な情報提供手段の確立を目指し、

•**国際的機関との連携**および重要情報に関する詳細調査(文献・訪問など)を充実し専門性を高めるとともに、**身近な電磁界の測定調査などを行い**、その結果を公開する。

•一般市民を対象としたセミナー等を継続するとともに、行政・教育・メディア・医療など情報の媒介者を対象とした情報提供活動および**対象層特化活動の充実**を図る。

に重点を置く。

平成28年度業務計画の考え方(2/2)

＜平成28年度業務計画の具体的力点＞

1. 情報調査業務

- ・ 国際的機関との連携により最新論文収集とデータの着実な蓄積に努める。
- ・ 人々が興味を持つ身近な磁界発生源について、JEIC自ら磁界測定を実施し、電磁波セミナー、学会、ホームページ等で結果を公開していく。
- ・ 商用周波を基本としつつ、新たな発生源にも対応できるよう、情報収集する周波数範囲を拡大していく。

2. 情報提供業務

- ・ さまざまな関心事項や知識レベルにあわせた情報提供ができるよう、ホームページを中心としたコミュニケーションツールの充実を図る。
- ・ さまざまな機会を通じた情報提供を行うために、行政や諸団体からの講師派遣依頼など各種要請に積極的に対応する。
- ・ 情報の媒介者を対象とした情報提供活動を継続して実施する。
- ・ 対象層特化活動の充実を図る(妊婦等への情報提供を実施)。

平成28年度業務計画【情報調査G】(1/2)

1.情報収集・調査

1-1.電磁界関連情報(1次情報)の収集

- ・【報道内容】新聞記事検索会社、コンサルタント会社との情報配信契約による情報収集。
- ・【研究動向】より幅広い情報収集を目指し、ドイツ・アーヘン大学が運営する世界最大の情報データベースであるEMF-Portalと連携を図る。
- ・【社会動向】市民団体機関誌購読、イベント参加やコンサルタント会社との情報配信契約による情報収集。

1-2.入手した1次情報の詳細調査

- ・ 職員による文献調査、関係者インタビュー、現地調査などによる情報検証。
 - EU圏における職業者ばく露規制の法制化に関する実態調査(下期に予定)

2.情報整理・評価

2-1.電磁界データベースの整備

- ・ EMF-Portalとの連携により入手する学術論文を整理・登録を行うとともに、JEICデータベース(学術論文)のEMF-Portalへの移行を継続実施。
(詳細説明1)
- ・ 国内外の電磁界関連公文書も継続的に登録する。

平成28年度業務計画【情報調査G】(2/2)

2-2.報道等の内容精査

- 新聞記事および最近出版された書籍を中心に、記事内容について、関係者インタビューや関係文献の調査を行い、結果の公表、報道機関への連絡等を行う。
- 河北新報(8月28日付)における、早稲田大学応用脳科学研究所の研究グループが国際学術誌「バイオエレクトロマグネティクス」の9月号に掲載した「日本人向けの電磁過敏症質問票の開発および評価」の内容紹介記事を受け、電磁過敏症に対する国際機関の見解をJEIC-HPで紹介

2-3. 研究論文の個別評価

- 専門家ネットワーク、Rapid Response Group(RRG)を活用した迅速な論文評価と速報の公表を行う。
- 5月に公表された米国国家毒性プログラム(NTP)による「携帯電話電波に関する潜在的ハザードに関する研究」の中間報告について、RRGによる評価を公表(6月20日)

3.磁界レベルに関する調査

- 身近な発生源からの磁界測定を実施し、ホームページなどへ公表する。
(詳細説明2)

平成28年度業務計画【情報提供G】(1/3)

1. 情報提供ツールの整備

1-1. ホームページ

- ・ トップページを情報検索の容易性を考慮したレイアウトに変更し、合わせてレスポンシブルデザイン(パソコン、スマートフォン等の画面大きさに合わせて自動的に画面構成を調整)へ変更中。
- ・ これまでに蓄積した問い合わせ事例から適宜FAQの内容を充実する。

1-2. パンフレット

- ・ 最新情報にあわせ都度パンフレットを改訂する。

1-3. ニュースレター・メールマガジンの発行

- ・ ニュースレター・メールマガジンの継続的発行。

2. 双方向コミュニケーションの実践

2-1. 問い合わせ対応

- ・ 問い合わせ対応支援システムを活用した迅速的確な対応。
- ・ 職員研修による専門性とコミュニケーション能力の向上。
- ・ 各分野の専門家との関係による専門的な問い合わせに対する対応実施。

平成28年度業務計画【情報提供G】(2/3)

2-2. 電磁波セミナー(初級向け)の開催

- ・ 市町村の「後援」を受けた公共性の高いセミナーを地道に継続する。

2-3. 情報の媒介者を対象とした情報提供活動

- ・ 学校保健関連等の学会、大会への出展およびランチョンセミナーの開催。
(詳細説明3)

2-4. 対象層特化活動の充実(妊婦の知識啓発)

- ・ 「健やか親子21」参加団体への啓発活動、妊婦関連の学会、大会への出展
(詳細説明4)

2-5. 要請による電磁界説明会の実施

- ・ 各消費者生活センターへのダイレクトメール郵送による説明会ニーズの掘り起こしと要請への積極的な対応。
- ・ 消費者団体、地方公共団体等からの講師派遣要請への積極的な対応。
(詳細説明5)

平成28年度業務計画【情報提供G】(3/3)

3.リスク・コミュニケーション促進活動

3-1.磁界測定器貸出の実施

- 低周波磁界測定器の貸し出しを継続実施。 (詳細説明6)

3-2.情報の送り手を対象としたリスク・コミュニケーション研修の実施

- 電気事業者からの依頼に基づくリスクコミュニケーション研修の企画・運営。

平成28年度業務計画【管理G】

- 1.新規賛助会員募集、賛助会員数の維持・拡大
 - ・ 新規会員および継続に向けた積極的な広報活動。
- 2.各種委員会の開催
 - 2-1.運営委員会
 - ・ 議論を中心とした年2回程度の開催運営。
- 3.規程類の検討・整備
 - ・ 業務の円滑化および品質統一化を目的とした規程体系の整備。
- 4.業務効率化
 - ・ 業務削減による効率的な業務運営。
- 5.センター内教育の企画・管理
 - ・ 職員の能力向上に資するセンター内教育の企画と管理。

詳細説明

1. EMF-Portal(スライド`10～11)
2. 磁界測定プロジェクト(スライド`12～13)
3. 情報の媒介者を対象とした情報提供活動(スライド`14～15)
4. 対象層特化活動(スライド`16～17)
5. 要請による電磁界説明会(スライド`18)
6. 磁界測定器貸出 (スライド`19～20)

1. EMF-Portal(1/2)

○EMF-Portal参画： 2014年9月

※EMF-Portal 電磁界に関する一般向けの広範囲なデータベース

(登録件数 約23, 500件 内約5, 800件詳細情報掲載:世界最大規模)

・ドイツ・アーヘン工科大学医学部病院

職業病医学研究所生体電磁気相互作用研究センター(*femu*)が運営

○日本語版運用開始： 2016年2月～ (2016年6月に画面デザイン刷新)

○電磁界情報センターが実施する作業

・登録情報の翻訳

➤ 最新情報については、掲載1週間程度を目途に都度翻訳

➤ 過去(2014年以前に掲載されていた)データについては、3年程度を目途に順次翻訳中

(進 捗 状 況)

[2016年9月13日時点]

作業内容	独/英登録済み	日本語翻訳済み
用語集の翻訳	約3,000語	完了(100%)
論文タイトル翻訳	約20,000件	約16,000件(80%)
論文詳細情報翻訳	約4,500件	約1,000件(20%)

(日本語版用の新システム及び新Webページの開発はアーヘン工科大学が担当)

1. EMF-Portal(2/2)

○ 日本語版トップページ

インプリント 作業チーム 資金助成 ログイン

DEUTSCH ENGLISH **日本語**

EMF-PORTAL

ホーム 文献 科学技術 用語集 影響 その他

検索

ホーム

この日本語版は電磁界情報センター(JEIC)によって翻訳・編集しています。
また、本ホームページの他、文献検索、用語集は既に利用可能ですが、それ以外の機能については現在準備中ですので、しばらくお待ち下さい。

インターネット上の情報プラットフォームであるアーヘン工科大学のEMFポータルは、電磁界(EMF)の影響に関する科学研究のデータを体系的に蓄積しています。この問題に関心をもつ市民および医師、法律家、政治家のような意思決定者あるいはオピニオンリーダーは、全ての情報を英語とドイツ語で、また大部分が日本語でも見ることが出来ます。EMFポータルは、さまざまな種類の文献データベース、用語解説、電磁界関連のデータベースなどで成り立ち、それらは相互に関連し、深い結びつきにあります。EMFポータルの中核は、広範囲にわたる文献データベースで、電磁界の影響に関する個々の学術論文 23,152 件ならびに作成された研究概要 5,646 件が収録されています。体系的な検索では日々新しい論文が探され、この収録データベースに加えられる。

EMFポータルは、アーヘン工科大学、大学病院の医学研究所およびその外来クリニックの femu グループが行っているプロジェクトです。

さらにEMFポータルの目的を知りたい方は ...

以下の新規登録文献、新規登録論文概要については、翻訳までに数日要する場合があります。

新規登録文献	新規登録論文概要
16/06/09 [イタリアでの小児の超低周波磁界個人ばく露測定] Liorni I et al., Int J Environ Res Public Health 2016; 13 (6)	
16/06/09 [2,375MHz帯・大電力無線局の近傍における遺伝毒性/変異原性の不検出] Sergeeva S et al., Mutat Res Genet Toxicol Environ Mutagen 2016; 803	
16/06/09 [MW放射はヒト神経細胞線細胞株SH-SY5Yの遺伝子発現、アポトーシスレベルおよび細胞周期促進に影響するか?] Kayhan H et al., Cell Biochem Biophys 2016;	

過去30日以内の新規登録文献 →

Children's Personal Exposure Measurements to Extremely Low Frequency Magnetic Fields in Italy. TECH/DOSIM

イタリアでの小児の超低周波磁界個人ばく露測定

著者: Liorni I, Parazzini M, Struchen B, Flocchi S, Roosli M, Ravazzani P
掲載誌: Int J Environ Res Public Health 2016; 13 (6): 549-
全てのテキスト 学術誌 PubMed DOI: 10.3390/ijerph13060549

この研究は、ナポリの小児を対象に、超低周波磁界(ELF-MF)の個人ばく露測定値と一日の活動との相関を調べた。参加応募者86人から、潜在的な高度ばく露者が多めの標本とするため、送電線および建物内変電室への接近距離を考慮して52人を対象者に選んだ。季節の異なる2つの調査時点で、各小児の個人ばく露測定および寝室での測定を実施した。その結果、24時間の個人ばく露測定値および寝室での測定値の中央値は<3 μTであった; 24時間の寝室での測定値の幾何平均の大部分は<0.4 μTであった; 季節の違いは個人ばく露および寝室での測定値に有意な影響を与えなかった; 日中を自宅で過ごした時および屋外において、平均磁界レベルの最高値が見られた; 個人ばく露値と寝室測定値との有意差は、中央値および幾何平均では見られなかったが、算術平均では見られた、と報告している。

UNIKLINIK RWTH AACHEN femu JEIC

2. 磁界測定プロジェクト(1/2)

家電製品から発生する磁界の測定

目的

- ・パンフレットやセミナーで紹介する家電製品より発生する磁界測定値の更新を行う。
現在は家電製品協会が平成15年に測定した実測データを使用している。
 - ・なお、平成17年に国際的な磁界測定規格(IEC62233)が公表され、それに基づいた最新家電の測定結果が、平成25年に家電製品協会から公表されたものの、当該規格が国際的ガイドライン値に対する割合(%)を測定することとなっていることから、公表結果も国際的ガイドライン値に対する割合の公表となっている。
 - ・このため、家電製品協会のデータは、複数の周波数成分を評価した正確なものではあるが、超低周波(50ヘルツ・60ヘルツ)の磁界の健康影響で話題となる $0.4\mu\text{T}$ (数値)との比較はできない。また、貸出している測定器の測定値とも比較できない。
- ⇒ 正確ではあるものの、一般の方にはわかりにくい。センターで測定を行い、結果はホームページやパンフレット・セミナーなどで公開する。

計画

平成27年～平成28年度末までに、身のまわりの主な家電製品40種目をそれぞれ3台程度測定する。なお、測定結果の公開は平成29年度予定。

2. 磁界測定プロジェクト(2/2)

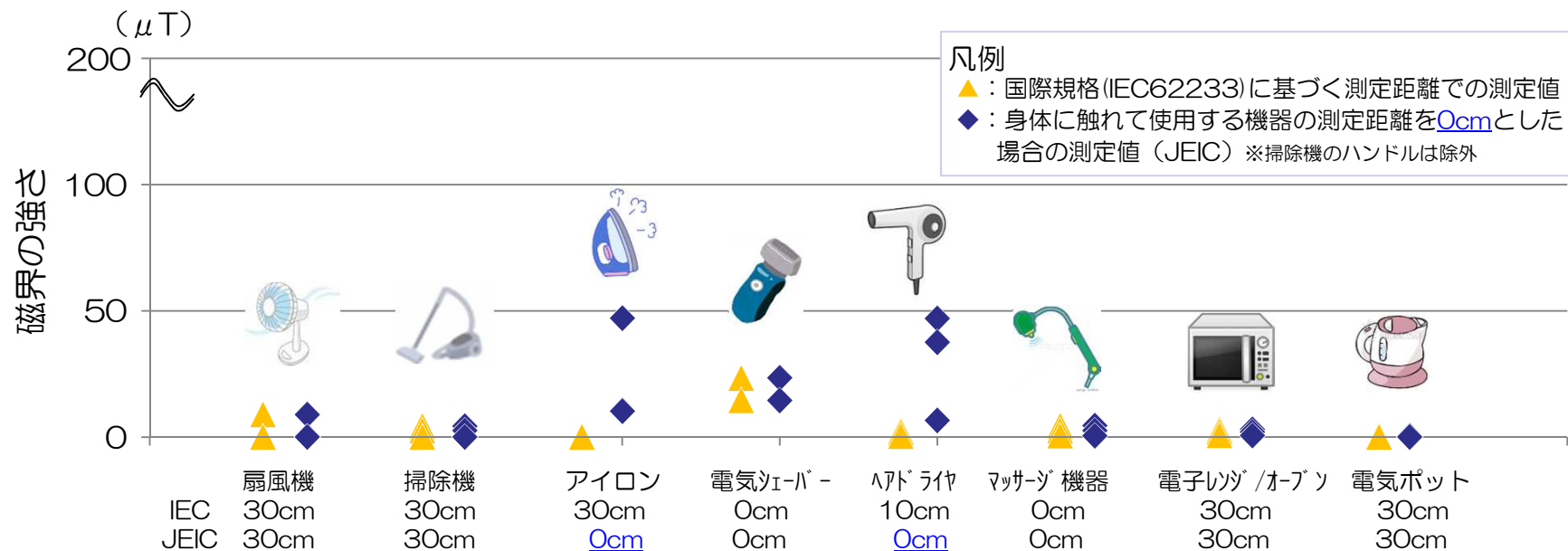
家電製品から発生する磁界の測定

今年度の計画

・平成28年度はエアコン、洗濯機、冷蔵庫、テレビ、ホットカーペットなどの32種類、96台について測定を行う計画

(参考)平成27年度実施結果

・平成27年度は「扇風機、掃除機、アイロン、電気シェーバー、ヘアドライヤ、マッサージ器、電子レンジ、電気ポット」の8種類、23台について測定を実施。



3.情報の媒介者を対象とした情報提供活動(1/2)

学校保健・衛生関係関連学会等への参加状況

	H24 年度 実績	H25 年度 実績	H26 年度 実績	H27 年度 実績	H28 年度	
					実績	予定
学校保健関連						
ランチョンセミナー	1	1	2	3	1	4
出展	2	4	6	2	1	1
広告	-	1	-	1	2	3
折込	1	2	1	2	2	2

合計 4回 8回 9回 8回 10回

衛生関係						
ランチョンセミナー	1	2	1	4	4	9
出展	1	-	1	-	-	-
広告	-	-	-	1	1	2
折込	-	-	-	-	-	-

合計 2回 2回 2回 5回 11回

○電磁波の健康影響に関する啓発効果が高いと考えられる、専門職が参加する学会のランチョンセミナーへ積極的に参加。

9月29日時点で704名がランチョンセミナーに参加。

○ランチョン・出展・広告・折込など、重複する協賛は慎重に検討。

3.情報の媒介者を対象とした情報提供活動(2/2)

ランチョンセミナー



(ランチョン) 日本地域看護学会、日本公衆衛生学会
日本薬学会、日本養護教諭教育学会など

(広告) 日本衛生学会学術総会、日本助産師学会
全国学校保健・全国養護教諭研究大会など

抄録集等への広告掲載

一般社団法人 電磁界情報センター (JEIC) 電磁界情報センター
Japan EMF Information Center

私たちは電磁波(電磁界)の健康影響に関する最新の情報を提供しています。
JEICは、経済産業省の「電力設備電磁界対策ワーキンググループ」の政策提言を受けて設立された組織です。

国際機関の見解 ● 研究報告 ● メディア情報など

国内外の情報調査・分析

ホームページ: 国内外の最新の情報を調査して、ホームページに掲載しています。
【主な内容】
● 国内外の最新の情報
● 各種パンフレット
● 電磁界情報データベース

電磁界情報データベース: 国内外の電磁界に関する論文や文献などを収集しデータベースとして保存・公開しています。
収録数 13,000以上

電磁波セミナーの開催: 電磁波に関する最新の情報を提供するため、世界保健機関(WHO)などの専門家と連携をとり、セミナーを開催しています。

議会の活動: 電磁波に関する委員会、学際委員会などの活動に積極的に参加しています。
※ 原則、学会・研究会が対象です。

ニュースレター・メールマガジン: 最新の研究・電磁波の最新情報などの情報を提供するため、ニュースレター(毎月)とメールマガジンを発行しています。

低電磁界測定器貸出: 身のまわりの電磁波の強さを測定していただくことを目的に、電力設備や家電製品から発生する電磁波の測定器を無料で貸し出すサービスを行っています。

電磁波の健康影響に関するお問い合わせ先

お問い合わせ先: URL: <http://www.jeic-emf.jp/> TEL: 03-5444-2631 電話受付時間: 平日9:00～17:00(12:00～13:00を除く)
FAX: 03-5444-2632 mail: jeic@jeic.jp

4. 対象層特化活動(妊婦の知識啓発)(1/3)

超低周波電磁界の健康影響については、「小児白血病」との関連が指摘されていることもあり妊婦等からの電磁界ばく露に伴う胎児への健康不安の問合せが多数寄せられおり、妊婦の過大な不安を払拭させ、正しい理解促進に繋がるような知識啓発活動が重要。

啓発活動 概要

1. 検討期間

平成26年3月～平成28年3月

2. 検討体制

中林正雄 委員長（母子愛育会総合母子保健センター所長）他5名

3. 検討結果

- ・H26年 3月17日 第1回検討会実施(委員長選任、趣旨説明、検討方針確認など)
- ・H26年 6月 妊婦等を対象に電磁波に関するアンケート調査を実施
- ・H27年 4月 妊婦向けイベントでドラフト版パンフレットのアンケート調査を実施
- ・H27年 7月13日 第4回検討会実施(パンフレット改訂案検討、伝達ルート確認など)
- ・H27年10月 妊婦向けパンフレット完成・配布開始

4. 今年度の実施内容

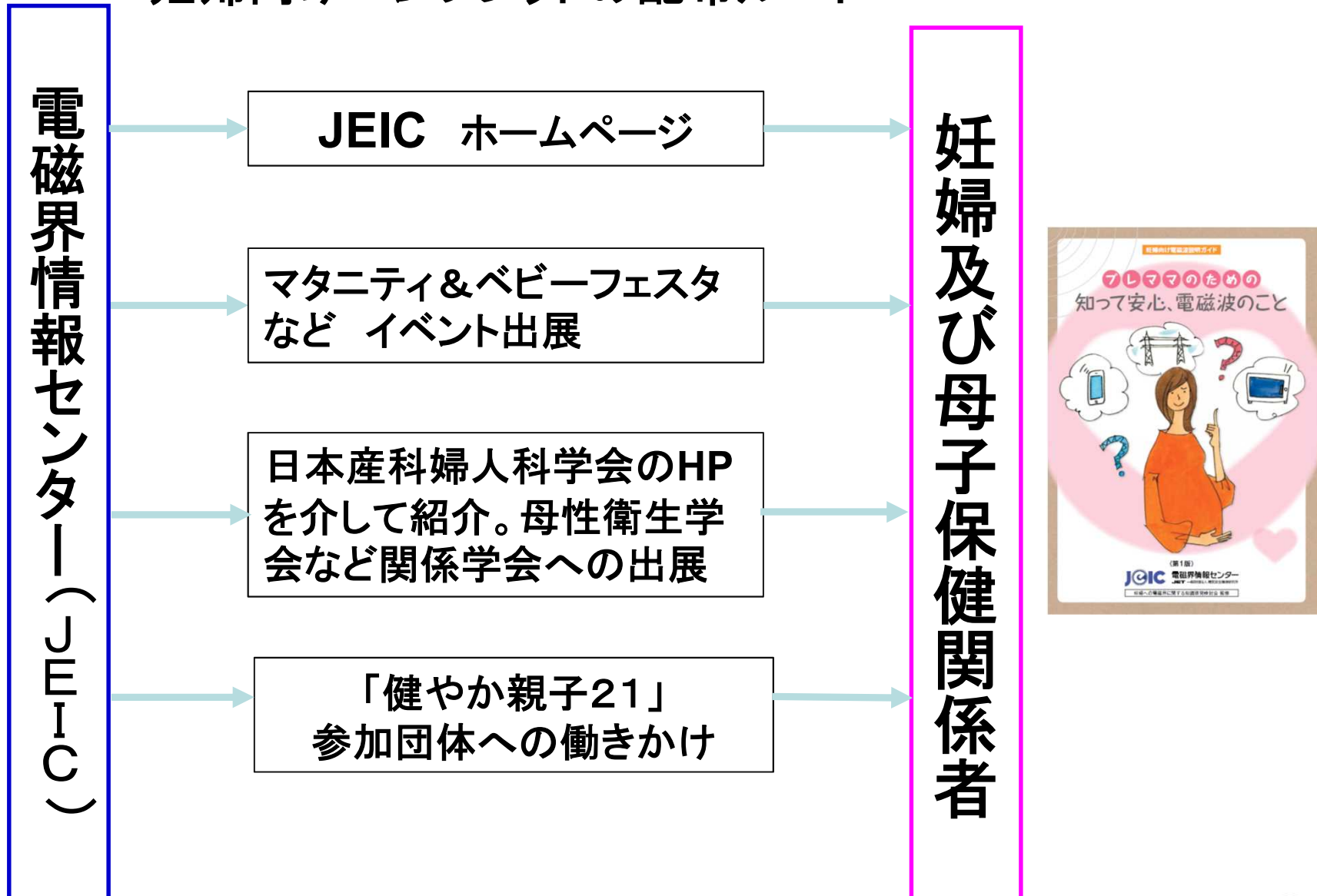
- ・H28年 4月 「健やか親子21」入会およびホームページにパンフレット掲載
- ・H28年 4月 2～3日 マタニティ&ベビーフェスタ(横浜)出展
- ・H28年 5月27～28日 日本助産師学会出展
- ・H28年 7月 日本産科婦人科学会のホームページを介してパンフレットを紹介

5. 今後の主な予定

- ・「健やか親子21」参加団体を通じての関係者への啓発活動
- ・日本母性衛生学会総会・学術集会ランチョンセミナー 10月
- ・厚生労働省が推奨している「マタニティマーク」とのタイアップによる広告

4. 対象層特化活動(妊婦の知識啓発)(2/3)

妊婦向けパンフレットの配布ルート



4. 対象層特化活動(妊婦の知識啓発)(3/3)

「健やか親子21」の参加団体

テーマ1「国民への情報発信・普及啓発等」 53団体

事務局 (公益社団)日本産婦人科学会
(公益社団)日本小児科学会

メンバー (公益社団)国民健康保険中央会
(公益社団)日本医師会
(公益社団)日本学校保健会
(公益社団)全国助産師教育協議会
(公益社団)日本看護協会
(公益社団)日本小児保健医会
(社副)全国社会福祉協議会
全国保健長会
日本赤十字社

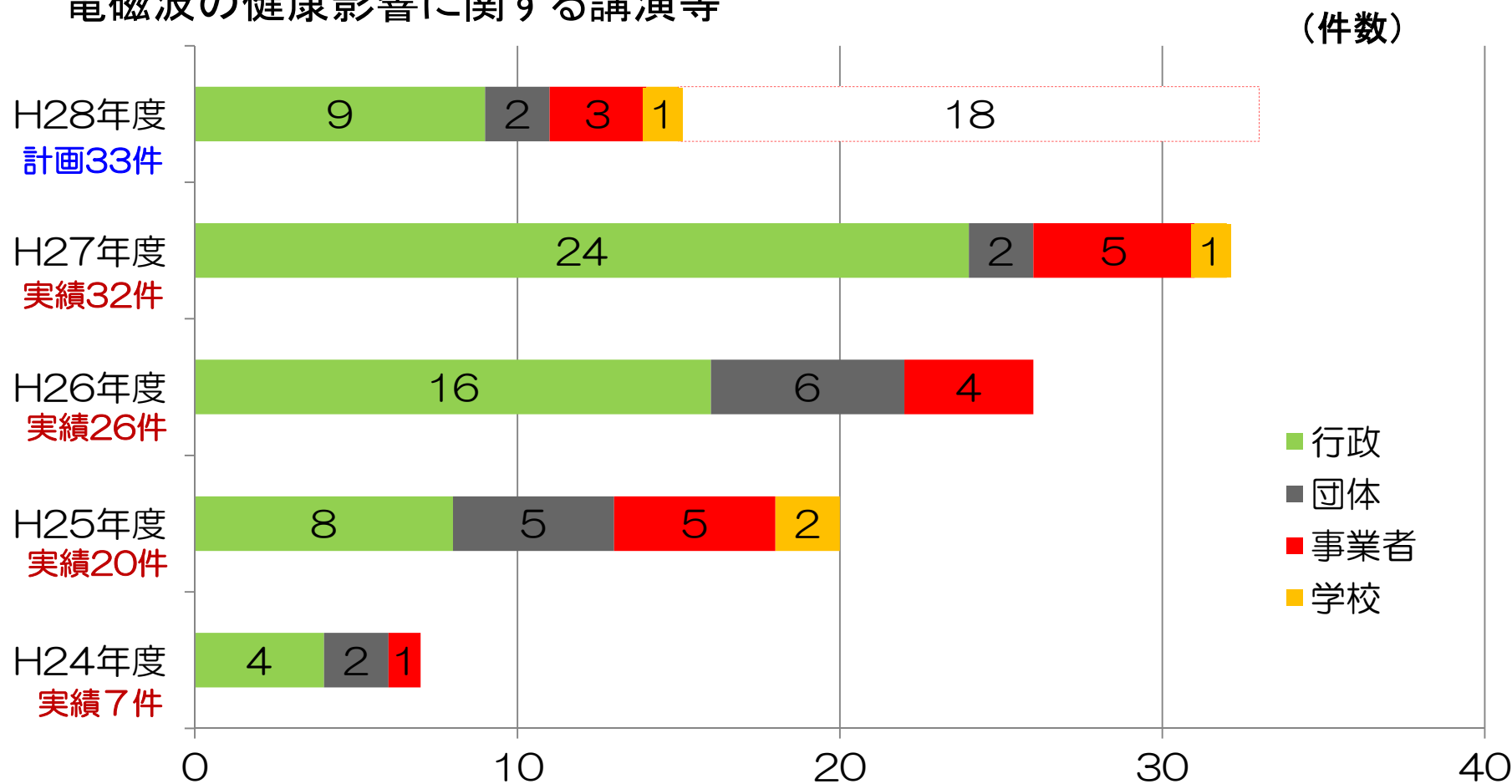
(一財)電気安全環境研究所

など

5.要請による電磁界説明会(1/1)

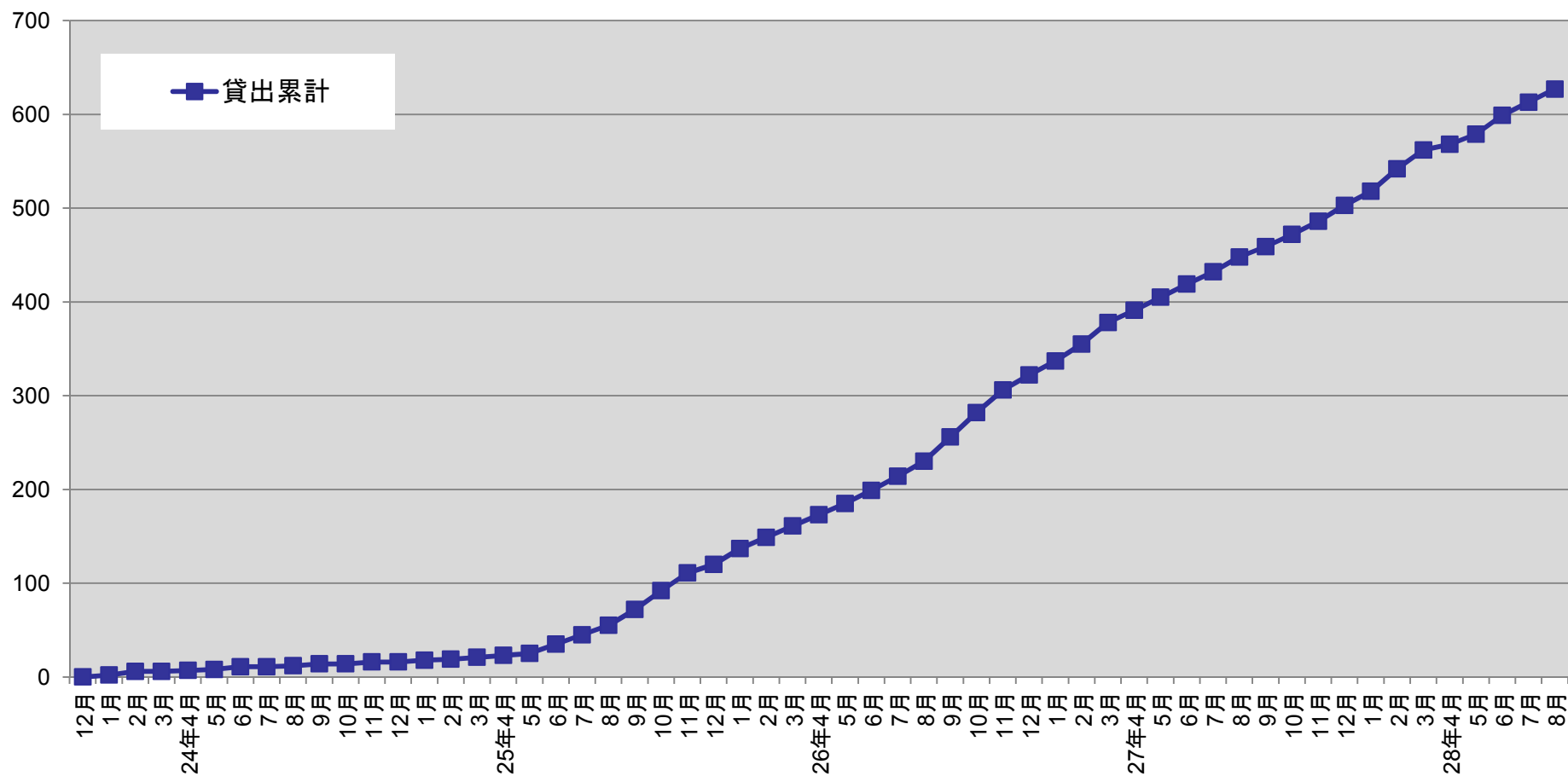
講師派遣依頼等への対応状況

身のまわりの電力設備、家電製品やIH調理器、携帯電話等から発生する
電磁波の健康影響に関する講演等



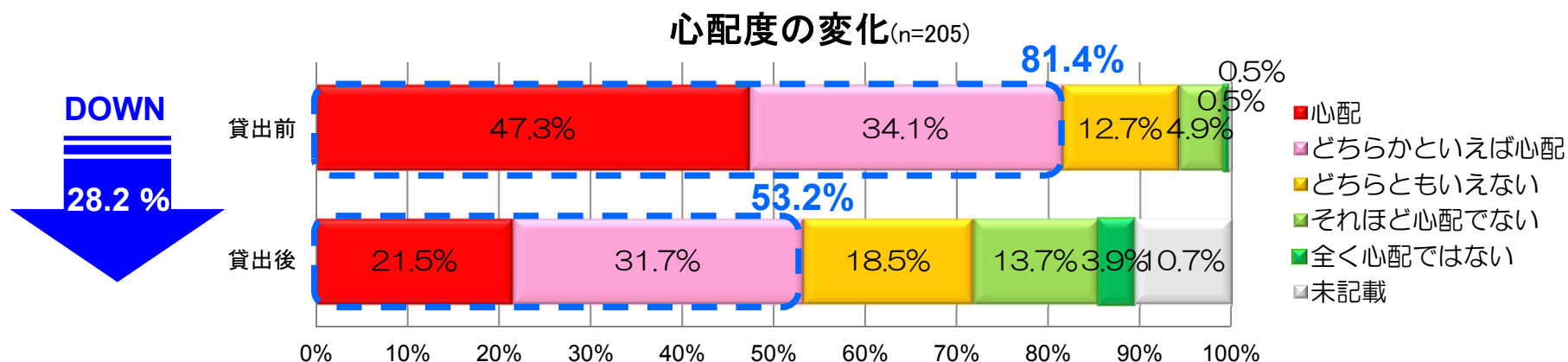
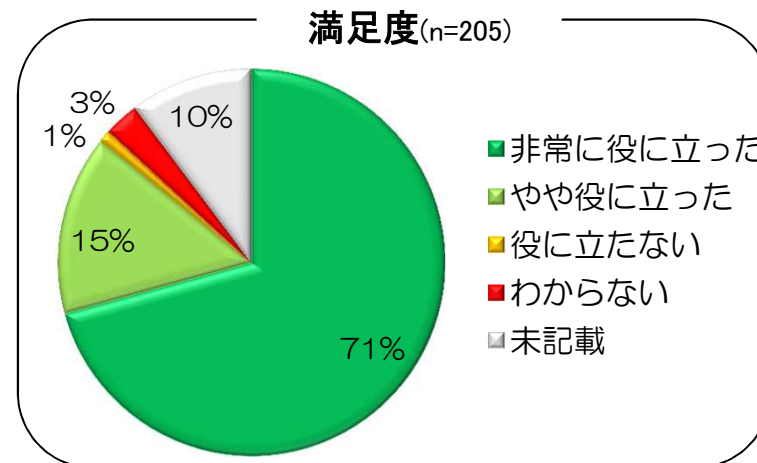
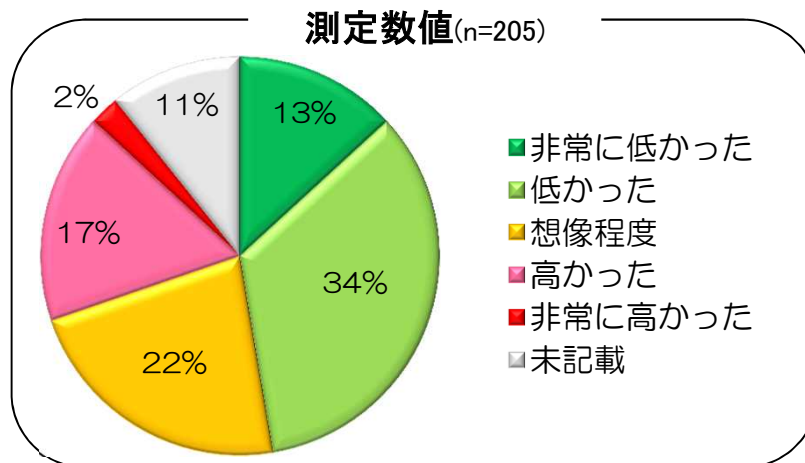
6. 磁界測定器貸出(1/2)

測定器貸出件数 累計



6. 磁界測定器貸出(2/2)

平成27年度アンケート集計結果による評価



心配している人の割合が28.2%減少